

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1171300187
法人名	社会福祉法人大樹会
事業所名	こむろん家
所在地	〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室10145 - 1 (電話) 048-720-5500

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(20年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	5 人	常勤 2人, 非常勤 3人, 常勤換算	4.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,100 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	600 円	昼食	300 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
または1日当たり1,500円				

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.2 歳	最低	71 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内田クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

梨畑を前にして森と緑の豊かな閑静な郊外に設立され8年の歴史を持っている。高齢者介護の理想を求めて運営者の思いが込められた和風建築の中で6人定員のホームである。すべてがゆったりと明るく和の雰囲気満ちており、庭に出る事もでき開放感が得られている。デイサービスを併設して人の出入りや職員の異動等もあるので小規模の寂しさはない。また母体事業体の施設が近距離にあり、利用者の状況に合わせた施設の選定や移動が可能でもありスケールメリットを有している。運営理念は職員までよく浸透しており、利用者は自分らしさを保ちながら落ち着いた日常生活を送っている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で改善課題とされた12項目について、管理者、職員共に改善に努力している。ケアサービスについては職員間の連携を強めきめ細やかなサービスの向上に努めている。運営体制についてはホームと地域の連携を進めているところである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価は職員が個々に評価したものを管理者が取りまとめ、職員は評価の意義と内容を理解してホームの改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の発足準備に取り掛かっており、必要なメンバーを候補に挙げてこれから取り組もうとしている。町との情報交換も良く行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族は月1回以上面会に訪れているので、面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告している。その際には意見、苦情、不安等について何うようにしている。苦情相談窓口は設定されているが家族の苦情はあまりない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の住民とは親しく交流しており、町のイベントにも参加している。消防訓練の開催は住民の理解を得て行っている。町の民生委員やいきがい大学の訪問見学を受けている。母体事業体は近距離にあり事業体のイベントでは共に地域と交流する機会がある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	こころ豊かに高齢者生活が送れることを理想に掲げており、基本理念・職員行動指針を掲げている。その為に運営者はホームの運営に力を注ぐとともに、事業体全体としてのスローガンを職員から募集して、毎年新しいスローガを立てて理念の実現に努力している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年のスローガンは「あなたらしさ応援してマウス大樹会」であり、職員の会議や運営者からの話でよく職員に周知されている。利用者も職員も共に自分らしく生き生き生活できるように日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民とは親しく交流しており、町のイベントにも参加している。近隣住民からホームを訪ねることは少ないが、町の民生委員や生きがい大学の訪問・見学を受け入れるなど交流に努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で前回12項目あった要改善項目について、管理者・職員は改善に取り組んでいる。ケアサービスについては、職員間の連携を強めきめ細やかなサービスの向上に努めている。今回は職員が個々に評価をしたものを管理者が取りまとめており、評価の意義の理解につながっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の発足準備に取り組んでいるところである。		地域住民を代表するメンバーを加え、会議で出た意見をサービスの向上に活かせる有意義な内容となる事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームは町に1施設であり、町職員とは頻繁に情報交換を行って連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の面会時に利用者の生活ぶりや健康状態などを報告している。個人記録の開示もしており、金銭管理は文書報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情が表出できるように日常のやり取りで配慮している。苦情等の相談窓口は設置されているが、あまり苦情はなく記録も特にない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ建物内にデイサービスがあるため、事業体の交換人事があるが、比較的馴染みの職員が異動している。退職後も利用者を訪問したりすることで、利用者がダメージを受けまいよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業体で年間研修計画はあり、法人内の研修及び社協やグループホーム実践者研修など受講している。業務として研修に出ており、研修記録の提出や職員への報告など行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業体の中での交流がよく行われている。ホームに他の施設の職員が研修に来ることもあり、サービスの向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所の際は事業体の相談室が窓口となっており、本人や家族が見学して理解した上で入所している。体験入所はこれまでしていないが、無理なく馴染めるように配慮して進めている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事作りは利用者と協力して行っている。職員は人生の先輩である利用者の知恵から学ぶことが多い。料理・掃除など昔のやり方を職員が教わったり、行事ではお互いに楽しみながら取り組んでおり、学び支えあう関係を築いている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入浴、散歩、食事、外出など本人の意向を尋ねて決めている。無理なことはせず本人の気持ちに沿うように心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランは本人、家族に話して理解を得た上で実施している。プランの変更毎に必ず家族に話したり電話したりしており、家族の同意を得ている。毎月1回全職員が出席した会議でケアプランの検討を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直しは入所後1ヶ月、3ヶ月、変化がないときは6ヶ月で行っている。変化があるときは随時見直しをしており、家族には必ず了解を得て実施している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通常のかかりつけ医の受診は家族が行っているが、行事やケアの外出、緊急時の医療機関受診などはホームで行っている。また、事業体との連携においては夜間は特養の看護師の支援を受けられるメリットをもっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医を持っており、受診結果などを受けて支援している。協力医療機関は有床であり、また大病院とも必要時医療を受けられるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特別養護老人ホームや介護老人保健施設などを有しているため、重症化したときには、他の施設に移動する可能性があることを話しており、家族と方針は共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーには配慮して言葉かけや対応をしており、利用者は穏やかで清潔で落ちついた雰囲気である。職員の話の様子は気になり易いので、1人は見守りをする人をお互いの情報交換をするようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が6人と少人数であるため、大体生活の歩調を合わせていけている様子である。個人のペースを大切に、本人が好きなように生活できる事を尊重しようと努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>朝、夕はホームの献立で職員と利用者が1日おきに買い物に行き食材をそろえている。昼食は隣のデイサービスからお弁当として取っている。介護度は軽い人が多いので、職員と協力して調理、配膳、片付けをして生活を楽しんでいる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴が出来る体制になっており、本人の希望に合わせて少なくとも1日おきに入浴できるようにしている。現在夜間入浴の希望はなく、主に午後入浴している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>料理、洗濯干し、洗濯物たたみ、掃除、食材の買い物など、利用者はそれぞれ役割のある生活を送っている。出来ることには手を出さずに見守っていくよう支援している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>午前と午後に分けて散歩を勧めている。正面は梨畑で緑豊かな森が近くにあり毎日森林浴が出来、車椅子を持参して出かけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関にはセンサーを設置しているが、夜間以外に施錠はしていない。居室は庭に面しており、居間の縁側から外の庭園に出られるようになっている。設備、環境が整備されており鍵をかけない開放的な構造となっている。</p>		
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署に依頼して年3回避難・消火訓練等をしている。訓練前には近隣に連絡して理解を得て実施している。近所の人からは「いつでも非常時には声をかけてよい」と言われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつのご食量と水分摂取状況を観察し必要量が摂れるように支援している。記録としては異常のない場合はしていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風建築で障子風建具や行灯風ライトがある落ち着いた建物である。吹き抜けの高い天井、広い廊下、ゆったりした居間と庭園がある。季節感が感じられると共にコタツも置いて高齢者の生活に合った居心地のよい空間づくりがされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るく広さもある居室に、備え付けのベット・ロッカー・洗面台・空調器がある。使い慣れた生活用具やテレビなどもあり、その人らしさが感じられる居室となっている。		